

1. 中国文化大学との交流プロジェクトの経緯と回顧

台北市にある大学間協定校である中国文化大学（Chinese Culture University, CCU）とのオンライン交流プロジェクトは2016年の1月に1回目を実施された。

1回目の交流に向けて、2015年11月初旬に台北市を訪問し、趙美聲（Mei-Sheng Chao）教授¹と交流目的や内容、および交流時期の検討、交流までのスケジュールなどを話し合った。同年11月下旬から12月初旬にグループ分けを行い、メールにて最終日程調整をし、2016年1月5日（火）4限目～5限目の時間帯に実施することを決定した。1回目の交流プロジェクトには、GoToMeeting system というテレビ会議ツールを用い、中国文化大生27名6グループ、高知大今井ゼミ生19名4グループが参加した。ゼミでのグループ構成は、2年生から4年生であり、各グループ4年生がリーダーとなり当日に向け準備を進めた。

交流当日は、中国文化大と高知大の各グループが交互に発表し、最後に質疑応答の時間を設定した（表1参照）。司会、および最後の感想（まとめ）は、両大学とも学生が担当し、高知大学側は4年生が担当した。

表1 交流プロジェクト1回目（2016年1月実施）の内容

順番	順番	プレゼンタイトル
①	C	Task-based Language Teaching (TBLT)
②	K	Effective Instruction for Reading Aloud
③	C	Total Physical Response (TPR)
④	K	PPP (3Ps) Approach
⑤	C	Community Language Teaching (CLT)
⑥	C	Content-based Instruction (CBI)
⑦	K	Fossilization
⑧	C	Desuggestopedia
⑨	K	English Education in Japan
⑩	C	Communicative Language Teaching (CLT)
Q & A Session / Comments & Discussion		

（補足）C: Chinese Culture University K: Kochi University

1回目の交流を受けて出された課題は、全員参加での発表のため、質疑応答時間の確保などが十分でないことであった。交流事業を重ねるにつれ、使用オンライン媒体もGoToMeeting system、Skype、Zoom、Teamsへと変化した。また開始当初の1つの部屋で複数のグループが交互に発表し合う形態（表1参照、写真①）から、大会議室で複数のグループに分かれて交流（写真②）、そして、複数の部屋に分かれて同時に交流を行う形態へと変更していった（写真③④）。複数の部屋で実施する形態にすることで、プレゼンや質疑応答の時間を十分確保することが可能となり、交流内容をより深めることができた。また、

¹ 所属は、College of International Studies and Foreign Languages である。

2018年6月には、中国文化大学よりスタディツアーを受け入れ交流を行った²。同年は、スタディツアー前の2018年5月22日に、また、12月13日に、中国文化大、高知大とも5グループに分かれオンライン交流を実施している。2019年度は12月25日に実施した(写真③④)。取り組みの様子は、『高知大学教育研究論集第25巻』に報告している³。



写真① (2016年1月6日実施)



写真② (2018年12月13日実施)



写真③ (2019年12月25日実施)



写真④ (2019年12月25日実施)

2. 2020年度の交流プロジェクト

コロナ禍にあった本年度は、例年通りの準備をすることは難しかったが、2020年12月24日(木)5限目の時間帯に実施することができた。当初は、中国文化大学とのオンライン交流前の5月下旬に、2018年6月に続き、2回目のスタディツアーを受け入れ、対面交流を行う計画であった。その交流時に、より詳細な打ち合わせを、教員間、学生間で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、見送ることが決定された。

2020年9月から10月にかけて、本年度の実施について、日程やグループ数(最終的には各大学8グループに決定)、交流テーマなどを趙教授と打ち合わせをした。その際、趙教授

² 中国文化大学からのスタディツアーは、2年生6名、3年生7名、4年生2名、大学院生3名、教員1名(趙教授)を含む合計19名が参加し、2018年6月25日(月)から27日(水)までの期間、交流が行われた。

³ タイトルは、Consideration of the Online Exchange Project with a Partnership University であり、掲載ページは pp.51-58 である。

から、中国文化大生（参加学生数 29 名）は今回、『The TKT (Teaching Knowledge Test) Course』（次頁の資料を参照）のテキストの中からテーマを選択したいとの連絡を受けた。中国文化大の参加学生は将来教員を目標としており、TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages、英語を第一言語としない人に対する英語教授法を専門的に学ぶ学問分野) の講義を受講していることより、プレゼンテーマの希望が出された。

10 月 30 日～11 月 6 日の期間には、趙教授と幾度もやりとりをし、互いのグループメンバーを調整し、組み合わせを決定した。その後、各グループのリーダーである学生は、11 月中に互いのグループリーダーと連絡を取り合った。その際、本番の 12 月 24 日（木）までに行う、2 回のグループ間の Teams を用いた打ち合わせ日時を相談した。双方のグループメンバー全員の日程を調整するのは難しかったようであるが、学生はメールや LINE を用いて頻繁にやり取りをし、表 2 のような日程を決定した。

表 2 中国文化大学との打ち合わせ、および、本番の日程

Group	1 回目	2 回目	プレゼン本番
1	12 月 10 日 (木)	12 月 16 日 (水)	12 月 24 日 (木) (5 限目)
2	12 月 10 日 (木)	12 月 17 日 (木)	
3	12 月 8 日 (火)	12 月 15 日 (水)	
4	12 月 7 日 (月)	12 月 14 日 (月)	
5	12 月 10 日 (木)	12 月 17 日 (木)	
6	12 月 9 日 (水)	12 月 16 日 (水)	
7	12 月 8 日 (火)	12 月 17 日 (木)	
8	12 月 10 日 (木)	12 月 17 日 (木)	

12 月 24 日（木）5 限目の本番の実施に向けて、大枠として 1 回にまずは自己紹介、テーマの絞り込みなどを行い、2 回目には本番に向けての進捗状況を報告し合い、最終打ち合わせを行った。各グループの発表テーマは次頁表 3 の通りである。

表3 2020年12月24日実施の発表テーマ

Group	中国文化大学	高知大学
1	Differences between L1 and L2 Learning	Motivation
2	PPP or TBL	Motivation
3	Motivation and Assessment	CLIL
4	The Importance of Listening and Speaking Teaching Theory	The Importance of 'Noticing'
5	The Differences Between L1 and L2 Learners in English Acquisition	Focus on Form Approach: Grammar Instruction in EFL
6	The Motivation for Learning English	Comparing the 2020 Changes in English Education with the Previous Standards
7	The Functions of Communication	The Practical Use of FonF in Japanese EFL Classrooms
8	How to Write an English Essay	Presentation - Practice - Production (3Ps Approach)

当日までの中国文化大学との1回目、2回目の交流、あるいはグループ内（高知大学生同士）でのうち合わせは、十分に感染対策を講じて行うことができていたが、本番では、大学に集合して実施した1つのグループを除いて、ほとんどのグループが自宅からの参加となった。

<資料>

TKT (Teaching Knowledge Test)

日本では一般的にはあまり馴染みがないが、TKTとは、英語教師に求められる言語・教授法の基礎知識を網羅した、ケンブリッジ大学英語検定機構が開発した世界基準の認定テストのことである。タイ、ベトナム、ポルトガル、チリ、メキシコ、コロンビア等、多くの教育省が教員採用や研修のベンチマーキングに導入している。

参考ウェブサイト

ケンブリッジ大学英語検定機構 (Cambridge English Language Assessment) 「英語教授知識認定テスト(TKT:Teaching Knowledge Test)～英語教授法の知識を測る国際基準の認定テスト～」、(https://cambridgeenglish.academy/wp-content/uploads/350090-summary_tkt_2017.pdf)。